

# 本の解剖学

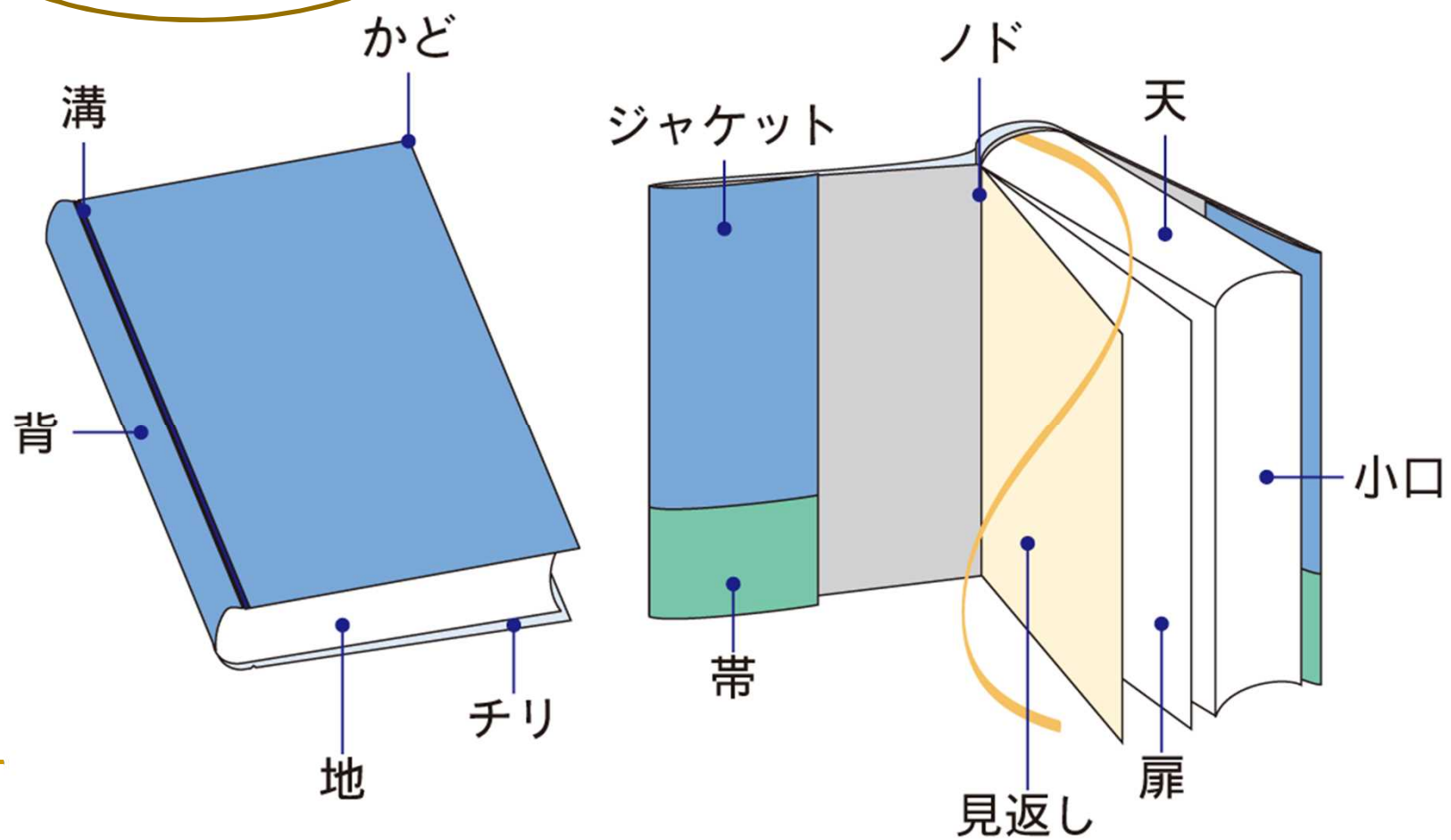
2014.6.20

富山大学中央図書館

中西印刷株式会社 中西秀彦

## 本の基礎知識

物としての

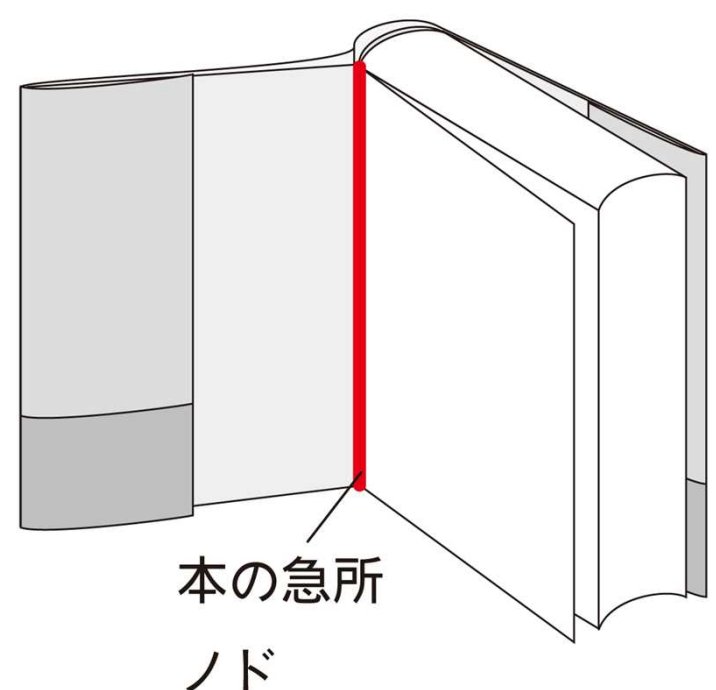


# 解剖を行います

- 解剖です。破壊ではありません。
  - 本の構造を知るために、述式に沿って解剖しましょう。
- 本の基本構造
  - 本文と表紙
    - 表紙は、丈夫で内容を保護する
    - 本文は、読みやすくするためやわらかい
  - このふたつを両立させているのが製本

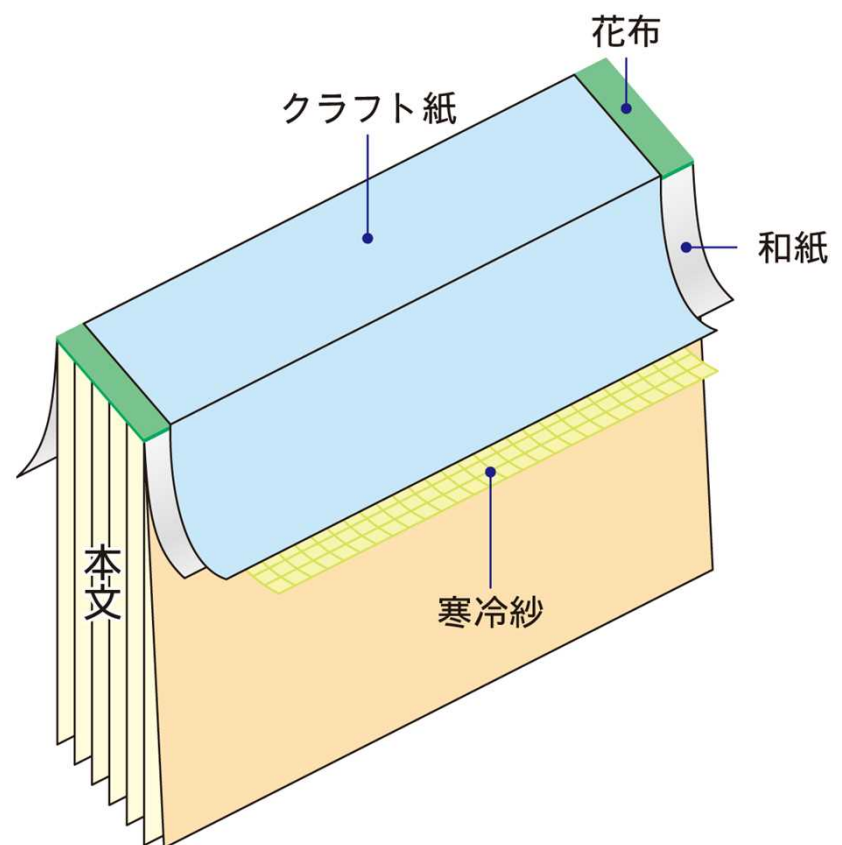
## 解剖述式 1

- のどを切る 丁寧に！
  - 見返しだけ切って寒冷紗を傷つければベスト
- 見返しだけをうまく剥がす
  - 無理なら奥までメス(カッター)を
- 表紙についての寒冷紗を剥がす
- 注意深く、表紙を剥がす
  - 固まった糊をとっていきます



## 解剖術式2

- うまく表紙をはがすと右図になるはず
  - 普通は寒冷紗まで切れています
- 部品を一個一個とりだす
  - 花布・スピン・寒冷紗
- ここで綴じ方を見ましょう
- 本文と表紙をつなぐための数々の仕組み
- 花布はいわばネクタイのような飾り



## 表紙見返し等を完全に取り去った状態

- V字や斜めなどの製本記号が見えますか
  - 乱丁を防ぐための工夫
- だいたい16ページか8ページ単位で、ひとまとまりに
  - あとで詳述

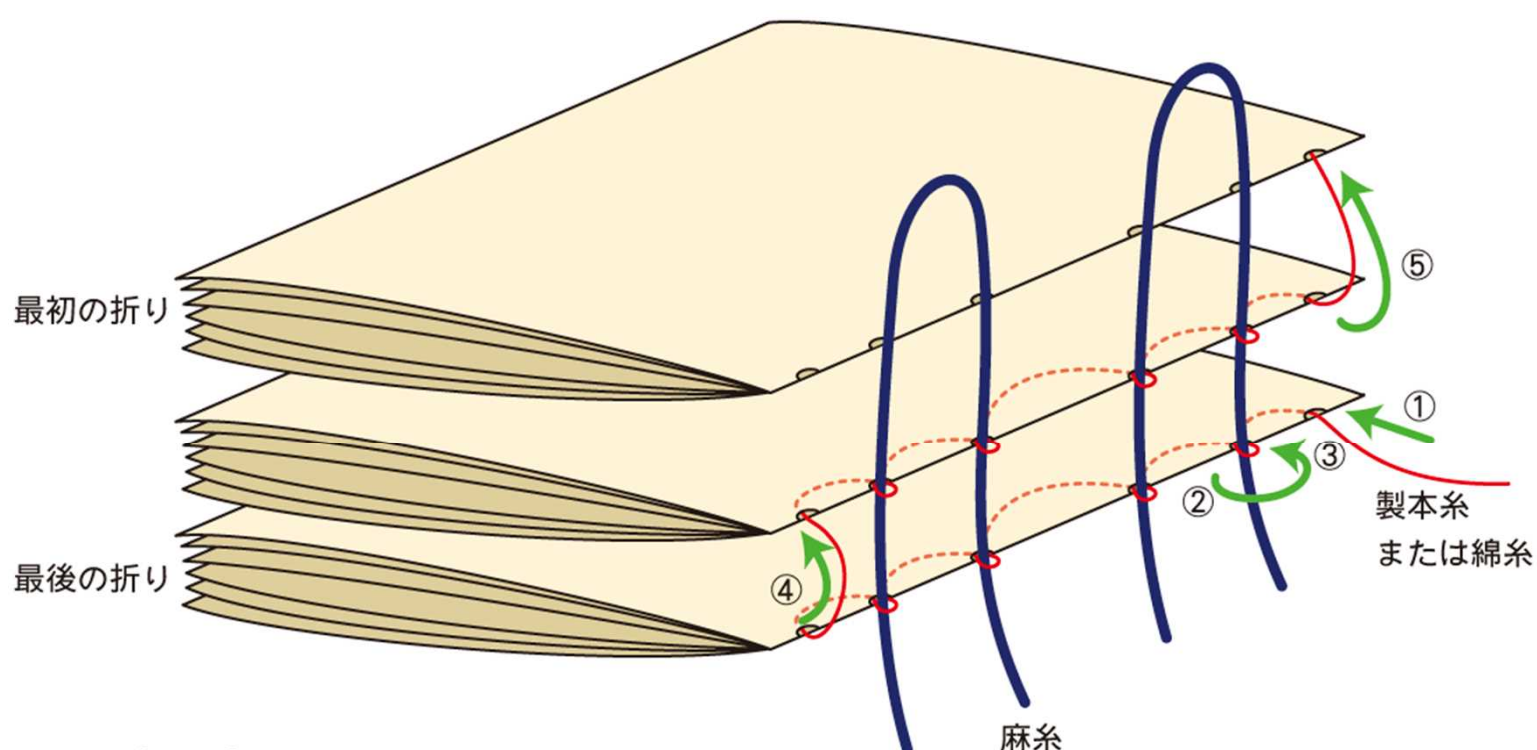


# 糸がありますか

- 表紙をはぎとったあとの背に糸くずのようなものがついていますか
  - ついていたら、それは糸かがり綴じ
  - ついていなければ、それは網代綴じ あるいは無線綴じ

## 糸かがり綴じ

- 糸で製本する古い技法です



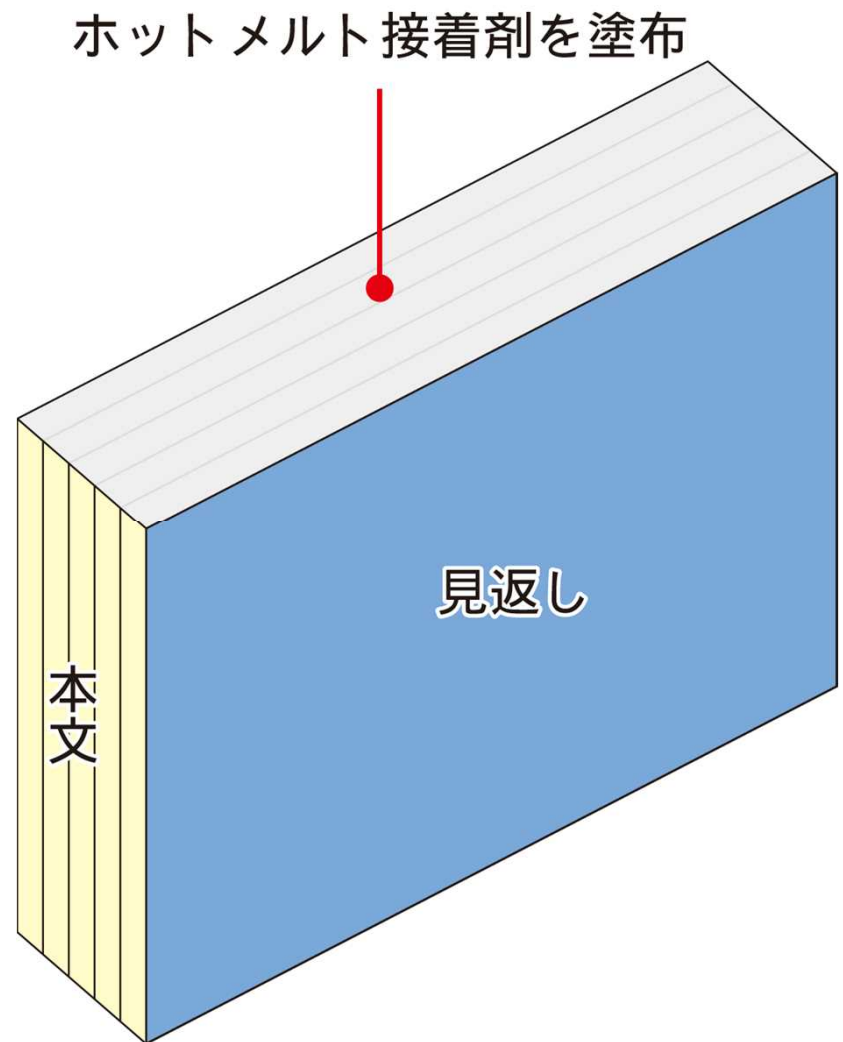
【注 意】

----- は折り丁の中を通ることを示します

この図は縦組みの場合を示しています

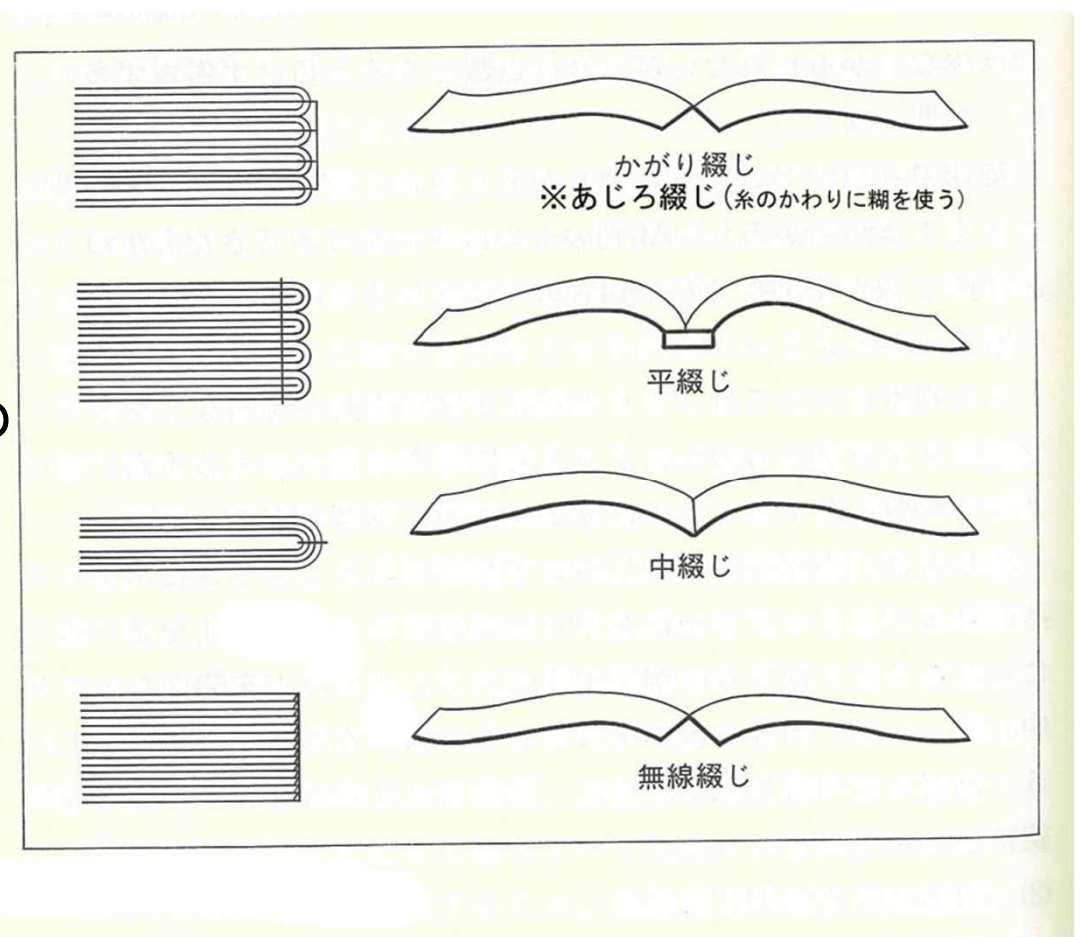
# 網代綴じ

- 糊で束ねます。この糊は表紙を固定する糊にもなります。
- 現在の主流
  - 糊が化学糊となり品質が高くなったため可能になった技法
  - 以前は膠しかなかったのが弱かった。



## それ以外の綴じ方

- 平綴じ
  - 平面ホッチキスとめ
  - 最近では使われない
- 中綴じ
  - 真ん中でホッチキスとめ
  - 週刊誌など
  - 背表紙がつかない
- 無線とじ
  - 折りを活かさない
  - 糊でひたすら固める
  - デジタル印刷で多用






# 折り丁

- 本文は16ページ(または8ページ)ごとに1ブロックになっています。
- これが折り丁、製本の基本単位

8つ折り (16 頁)




表

天	天	天	天
5	12	9	8
4	13	16	1
天	天	天	天

裏

天	天	天	天
7	10	11	6
2	15	14	3
天	天	天	天

8つ折り (16 頁)

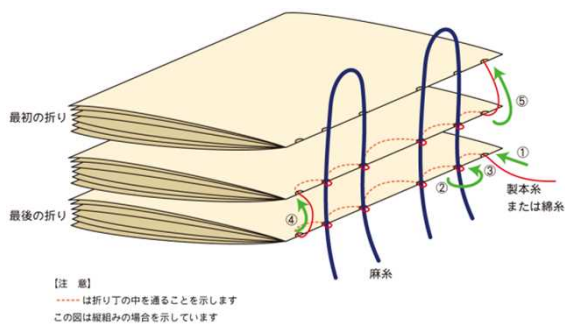


表

5	12	9	8
天	天	天	天
4	13	16	1
天	天	天	天

裏

7	10	11	6
天	天	天	天
2	15	14	3
天	天	天	天



8つ折り (16 頁)



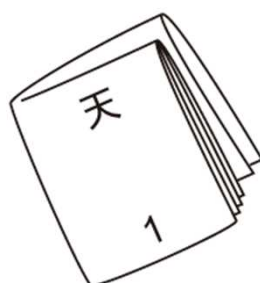
表

天	天	天	天
5	12	9	8
4	13	16	1
天	天	天	天

裏

天	天	天	天
7	10	11	6
2	15	14	3
天	天	天	天

8つ折り (16 頁)



表

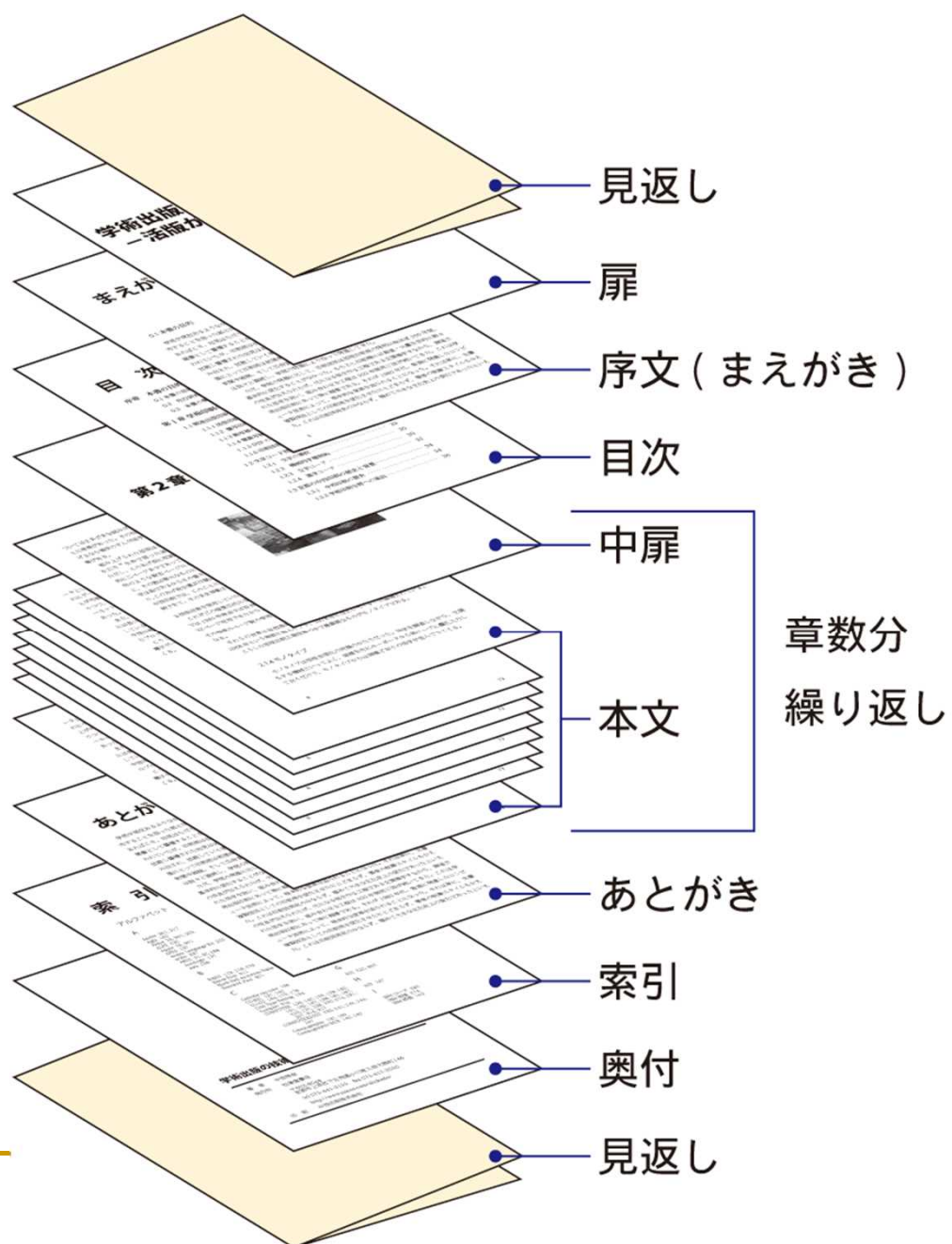
5	12	9	8
天	天	天	天
天	天	天	天
4	13	16	1

裏

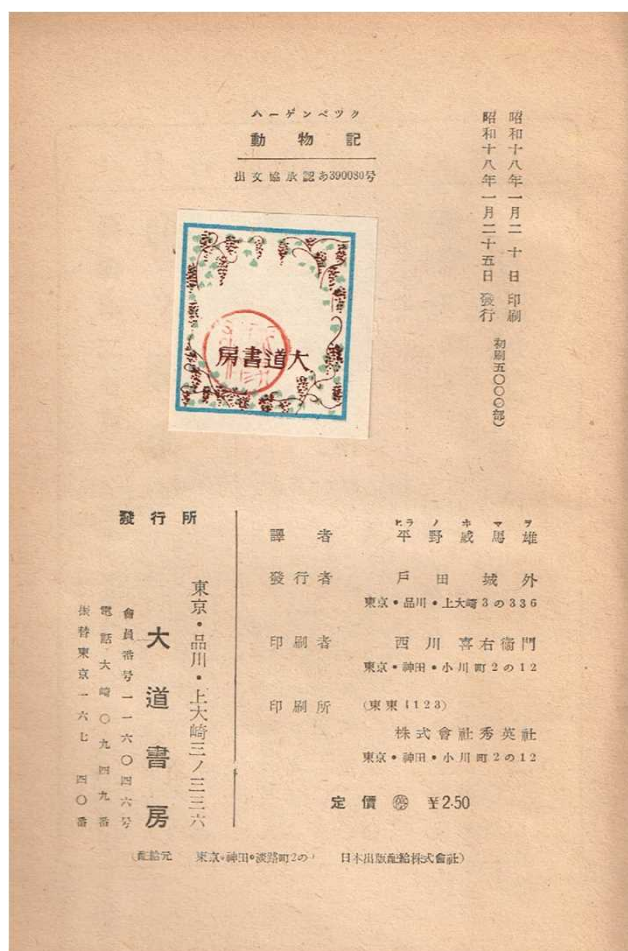
7	10	11	6
天	天	天	天
天	天	天	天
2	15	14	3

# 本の構造

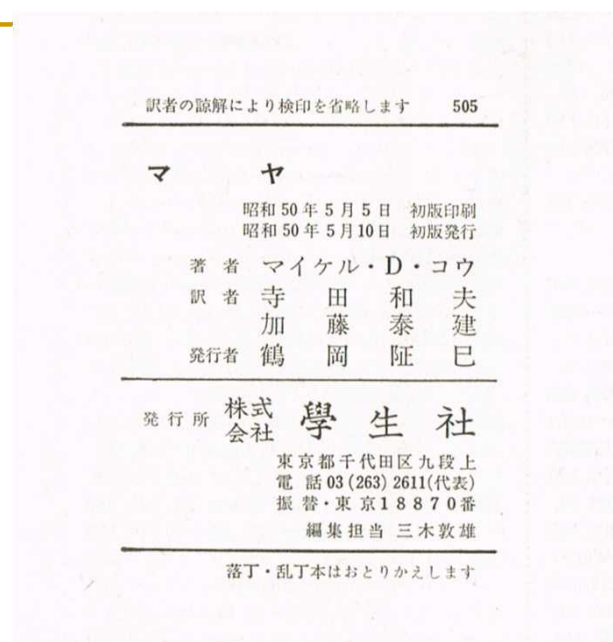
- だいたい右図のような順番で作られます



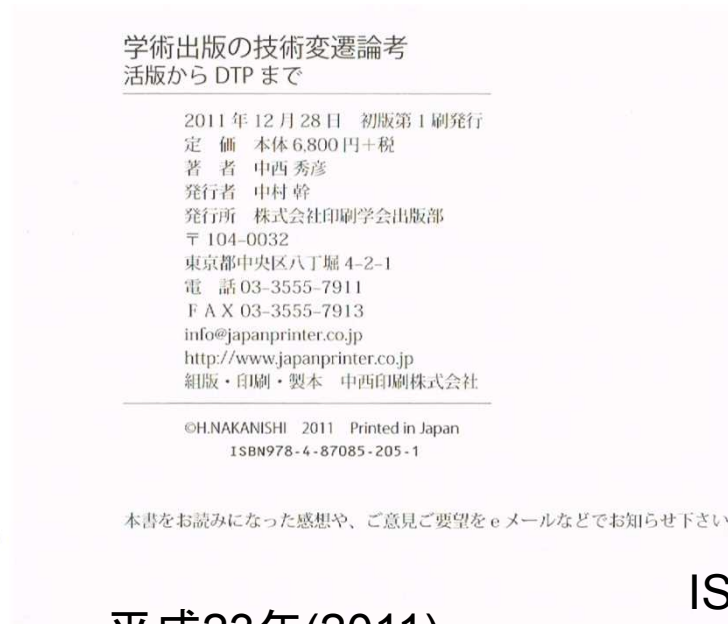
# 奥付と検印



昭和18年(1943)



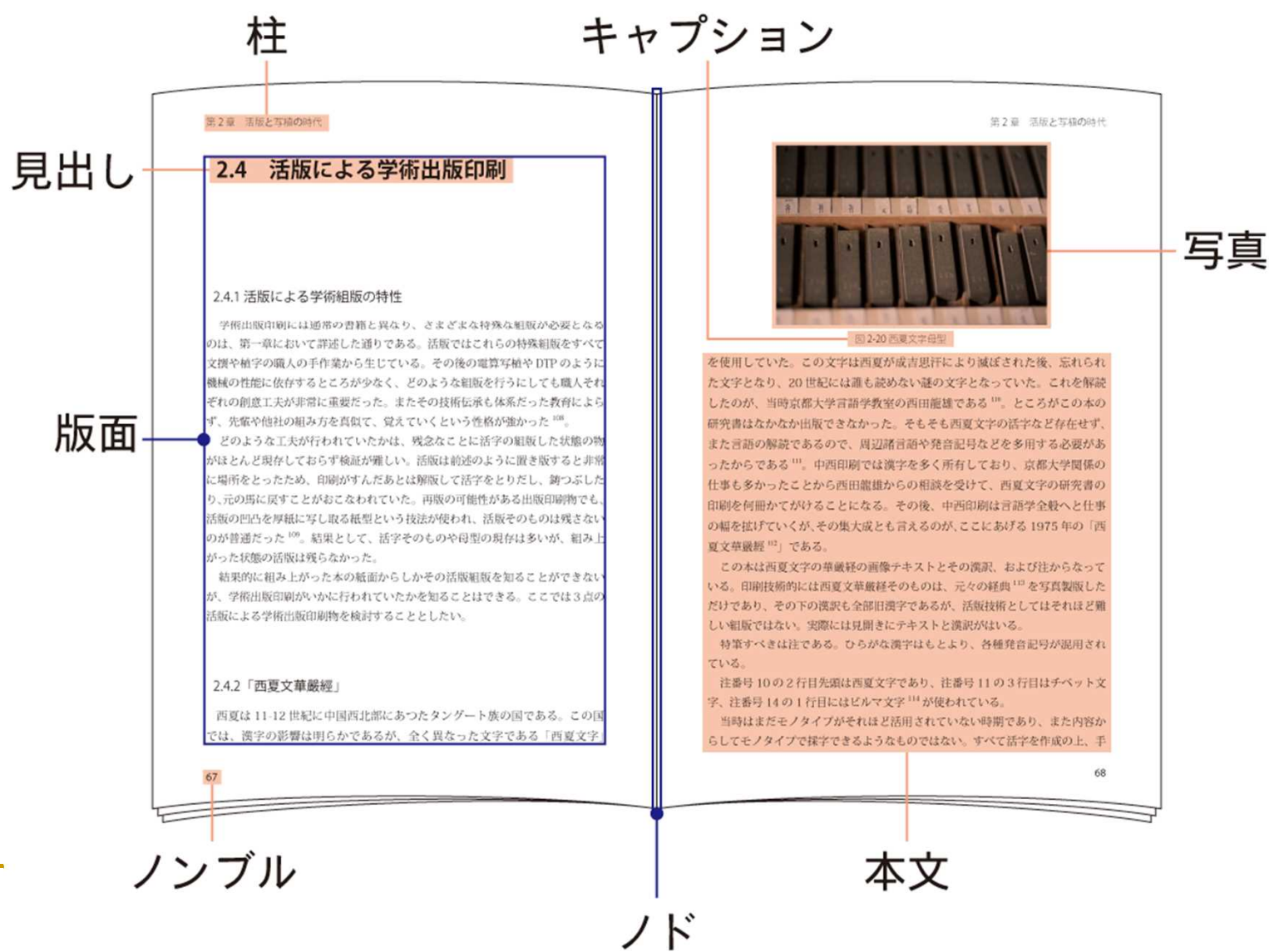
昭和50年(1975)



平成23年(2011)

ISBN

# ページに切り込む



## フォントを調べる

- 書籍の場合ほとんど明朝体です
  - 明朝にもいろいろありますが、私自身区別がつかない
  - 明朝体 縦が太く横が細い
  - ゴシック 縦も横も太い
  - 楷書体 手書きに近い
  - 丸ゴシック
- 字の大きさの単位
  - 号（尺貫法）
    - 活版の単位 10.5ポイントに痕跡
    - 五号=1/100鯨尺
  - ポイント(1/72インチ)
  - 級(0.25ミリ)

